



- 登 米農改：大豆ほ場巡回指導会が開催されました
  - 美 里農改：大豆の適期収穫に向け、現地検討会が開催されました
  - 石 卷農改：収穫前の大豆現地検討会が開催されました！
- ⑤ 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展 ..... 12
- 亘 理農改：規格外いちごを活用したメニュー開発研修会を開催しました
  - 石 卷農改：令和7年度東部管内鳥獣被害防止対策研修会が開催されました
  - 大 崎農改：大崎市の坂井悦子氏・美津男氏御夫妻が『令和7年度農事功績者表彰』で『緑白綬有功章』を受章！
  - 仙 台農改：農地整備事業の担い手が高収益作物（ねぎ）の先進地視察を行いました

## 2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① 要請・緊急・その他 ..... 14
- 大河原農改：あぶくまの里モーモーまつりが開催されました
  - 登 米農改：地域計画推進地区農業経営者意見交換会が開催されました
  - 気仙沼農改：第28回気仙沼市「花とみどりのまちづくりの集い」が開催されました

## 1. 人材育成・生産基盤の強化

### ①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○第2回登米圏域の農業振興に関する情報連絡会を開催しました

令和7年 11月 21日

登米農業改良普及センター



令和7年11月6日に、登米市農政関係各課、農業委員会、JAみやぎ登米営農部各課の担当者を参集し、第2回登米圏域の農業振興に関する情報連絡会を開催しました。

当普及センターからは、今夏の異常な高温と少雨による農作物への影響やその対策、関係機関と連携した対応について報告しました。併せて、今後も同様の状況が懸念される場合の対応について再確認しました。

また、今年度重点的に取り組んでいる課題の進捗状況を報告するとともに、令和8年度の計画作成に向けた意見もいただきました。

登米市からは、現在策定が進められている「第2次登米市農業振興ビジョン（案）」の概要について、JAみやぎ登米からは「営農経済事業活性化プログラム」の概要について説明頂き、情報を共有することができました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、農業者のニーズをとらえた活動を推進していきます。

### ②新たな担い手の確保・育成

○おおさき産業フェア 2025 に「農 Lady ♡ 農 Life」マルシェを出店しました！

令和7年 11月6日

大崎農業改良普及センター



大崎・美里・栗原の3つの農業改良普及センターでは、令和6年度から、若手女性農業者等の地域での活躍や交流を支援する事業を合同で実施しています。

令和7年10月18日（土）、（一社）みやぎ大崎観光公社様のご協力のもと、タカカツアリーナ大崎で開催された「おおさき産業フェア 2025」内の“食と暮らしのマルシェ”に、3地域の女性農業者8名で「農Lady ♡ 農Life」をキャッチフレーズとした出店をしました。

マルシェでは女性農業者が生産した新鮮な野菜や果物、新米、農産加工品のほか、多女性農業者との会話を楽しみながらお買い物いただきました。

参加した女性農業者からは、「皆で一緒に販売をできたことがとても良かった」、「このメンバーだったら、また参加したい」、「今回気付いたことを次回のマルシェの改善につなげたい」等の前向きな感想が寄せられました。

今後もイベント出店や反省会（振り返り）、女性農業者同士の交流会などを計画しており、普及センターで継続した支援を行っていきます。

※農 Lady ♡ 農 Life Instagram

[https://www.instagram.com/nolife\\_nolady?igsh=MXhmaXIzMWRwa3pvcQ%3D%3D&utm\\_source=qr](https://www.instagram.com/nolife_nolady?igsh=MXhmaXIzMWRwa3pvcQ%3D%3D&utm_source=qr)

○「輝け農業女子！機械セミナー」を開催しました  
令和7年11月6日  
栗原農業改良普及センター



令和7年10月23日（木）に、栗原市一迫農村環境改善センター及び現地ほ場を会場として、「第1回輝け農業女子！機械セミナー」を開催しました。

このセミナーは、農業機械の安全な使い方を学び、実際の作業を体験することで、不慣れな機械作業への抵抗感の解消を図るために開催されたもので、女性農業者や新規就農者（男性を含む）など12人が参加しました。

当日は、クボタアグリサービス株式会社仙台扱い手推進部の横田部長様を講師に、午前中は「機械の構造と安全な使い方（草刈り機・管理機の使い方とメンテナンス）」の講義、午後は草刈り機と管理機の操作実習が行われ、参加者は、講師に積極的に質問し、操作体験にも真剣に取り組むなど、終始熱心に学んでいました。

当日のアンケートでは、「ポイントを押さえ、安全第一で作業することの大切さを理解できました。」、「初めて操作しましたが、今まで持っていたイメージと違って、とても楽しく実習出来ました。」、「とても丁寧に教えてもらいよくわかりました。」等の意見をいただきましたなど、今後の安全な農作業に繋がるセミナーとなりました。

○認定新規就農者のサポート巡回が行われました  
令和7年11月13日  
登米農業改良普及センター



登米市内の新規就農者3人を対象に、営農状況を確認するサポート巡回を10月28日に行いました。

登米市とJAみやぎ登米、普及センターで対象者を巡回し、今年の栽培実績や課題、次年度の営農計画について伺い、現状把握と課題の解決に向けて意見交換や助言を行いました。新規就農者は資材高騰や夏季の異常高温など厳しい環境の中での営農となっていますが、5年後の所得目標達成や安定した経営に向けてそれが創意工夫しながら栽培に取り組んでいました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携しながら、新たな担い手の確保・育成に努めています。

○内ノ目地区先進地視察研修会が行われました  
令和7年11月13日  
登米農業改良普及センター



登米市東和町の内ノ目地区は農地整備事業の活用を希望し、令和8年度採択に向けて取り組んでいます。事業目標年度である令和17年度までに、新規に担い手となる1法人を設立し、農地を集積・集約化するとともに、高収益作物を作付けする計画です。このため、当普及センターでは内ノ目地区での法人設立

と高収益作物試作の支援を行っています。

今回は地区内で作付けする高収益作物の選定に向けて、法人設立発起人会から4人がJA加美よつばと有限会社ライスアーティストを訪問し、さつまいもの栽培方法や保管方法について学びました。参加者は、栽培方法・保管の注意点、実際に栽培した感想などたくさんのこと伺うことができ、非常に有意義な視察研修会となりました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、内ノ目地区地域営農構想の実現に向けて支援していきます。

## ○女性農業者のための農業機械研修会を開催しました

令和7年11月19日

登米農業改良普及センター



登米市中田町において、当普及センターと登米市内の女性農業者グループ（アグリレディーズネットとめ）が主催する農業機械研修会が11月14日に開催されました。グループ会員や女性の新規就農者など10人が参加し、農業機械の基本的な操作やメンテナンスについて学びました。

当日は、本県と農業分野に関する連携協定を結んでいる「株式会社クボタ」の関連会社「クボタアグリサービス株式会社」が講師を務め、最新式のミニ耕運機を用いて耕耘、土寄せ、草削りなどの安全な作業方法を現地ほ場で実際に機械を操作しながら学びました。

これまで農業機械について学ぶ機会も少なく自己流で操作していた方や、機械に苦手意識を持つ方もいましたが、講師からマンツーマンで丁寧に教えていただいたことで、かなり自信をつけた方もいたようです。

今後、他の農業機械にも興味を持ち操作技術を習得していただくことで、女性農業者の活躍の場が益々広がっていくことが期待されます。

## ○「第2回輝け農業女子！機械セミナー」を開催しました

令和7年11月20日

栗原農業改良普及センター



令和7年11月13日（木）に、宮城県栗原合同庁舎及び株式会社黒澤農産様のほ場を会場として、「第2回輝け農業女子！機械セミナー」を開催しました。

このセミナーは、農業機械の安全な使い方を学び、実習を通じて機械作業への抵抗感の解消を図るため、10月23日の第1回セミナー（草刈り機・管理機）に引き続いだ開催したもので、女性農業者や新規就農者など13人が参加しました。

当日は、クボタアグリサービス株式会社仙台担当手推進部の横田部長様を講師に、午前はトラクター及び管理機の安全な使い方とメンテナンスについての講義、午後はトラクター（ホイール、クローラ）と管理機（エンジン、電動）の操作実習が行われました。

参加者からは、「管理機のロータリ（爪）の交換はどうすればいいのか。」、「作業終了後、残った燃料はどうするのか。」など、終始熱心に質問や実習が行われ、今後の安全な農作業に繋がるセミナーとなりました。

## ○石巻地区4Hクラブ連絡協議会の視察研修が開催されました

令和7年11月25日

石巻農業改良普及センター





石巻市と東松島市の青年農業者で構成する石巻地区4Hクラブ連絡協議会の視察研修が、11月11日に開催されました。

今回の研修では、株式会社 渡辺採種場 澪峰研究農場と、クミアイ化学工業 株式会社 小牛田工場を視察しました。

澆峰研究農場では、試験栽培の様子を見学しました。ほ場とハウスで野菜を観察しながら、新品種の栽培適期、病害虫防除や肥培管理で気をつけるポイント、食感と味について説明をいただきました。クラブ員から「新品種開発のねらい」、「新品種の特徴ある名前のつけ方」、「とうもろこしの新品種について、収穫作業のしやすさ、もぎ採りやすさ」、「キャベツの新品種の栽植密度」、「ミニトマトの新品種のトマト黄化葉巻病の耐病性の有無」などについて質問が出され、自分で栽培している品目の新品種の情報を知ることができる有意義な機会となりました。

クミアイ化学工業では、新しい畑作用殺虫剤の特徴、新しい水稻用除草剤の特徴と散布方法、令和7年産水稻作において問題となったノビエの残草原因とその対策について説明をいただきました。クラブ員からは「水稻除草剤の間違った使い方や、その場合、どんな薬害が出るのか」、「水稻乾田直播栽培でもアカツキは使えるのか、水口施用でもきれいな処理層ができるのか」、「今使っている除草剤でも枯れない種類の雑草があり、枯らせる除草剤にはどんなものがあるか」など、自分が水稻栽培管理作業で疑問に思ったことや感じていることを質問し、活発な意見交換が行われ、水稻除草剤の上手な使い方について知る有意義な研修となりました。

## ○みやぎ農業未来塾「石巻地域の農業紹介講座」を開催しました 令和7年11月26日 石巻農業改良普及センター



令和7年11月20日に、令和7年度みやぎ農業未来塾「在学者コース～石巻地域の農業紹介講座」の第2回目を開催しました。

本講座は、高校生を対象に石巻地域農業の優良事例を紹介し、進路選択の参考と学習意欲の向上を図る目的で開催したものです。

今回は、石巻北高校食農系列2年生22人を対象に、株式会社ぱるファーム大曲代表取締役から、石巻地域の大規模土地利用型法人の取組を紹介していただきました。また、石巻北高校出身の社員から、就職したきっかけ、現在の仕事の内容や働いてみての感想、これからどんな業務をしてみたいかななどについて、生徒の前で先輩としてのメッセージをお話ししていただきました。

続いて、ほ場に移動し、ぱるファーム大曲で作付けしている大豆の品種の生育ステージや汎用コンバインの特徴、トラクター装着のRTK装置による直進アシスト機能などについて説明いただきました。

生徒からは、ほ場で刈り取られた大豆がこの後どこに運ばれて、どんな風に加工されるのかなどの質問が出されました。

生徒は非農家出身が多く、汎用コンバインでの大豆収穫やトラクターでの耕起作業、ドローンによる模擬農薬散布の実演では、非常に興味深く見学していました。機械による作業体験でも真剣な表情がみられ、有意義な講座となったようでした。

## ○学びの秋！4Hクラブ視察研修を開催しました 令和7年11月26日 亘理農業改良普及センター



亘理名取地区・亘理町4Hクラブは、経営と技術の向上を目指し、11月に2度の視察研修を行いました。

6日～7日の県外視察では、埼玉県の久米原農園でいちごの高単価ブランド戦略を、栃木県の山口果樹園では輸出や雇用体制を整備した法人経営を学び

ました。

続く 13 日は、栗原市の株式会社渡辺採種場瀬峰研究農場を訪問しました。同社が開発する品種の特性や、たまねぎの直播技術等について、実証ほ場で説明を受け、活発な意見交換が行われました。

県内外の先進的な取組に触れ、参加したクラブ員たちは「自分の経営にも取り入れたい」と、今後の農業経営への意欲を新たにしていました。

今後も、普及センターは次世代を担う青年農業者の知識や技術習得を支援してまいります。

### **③園芸产地の育成・強化支援**

#### **○枝もの用クロマツの気仙沼管内現地視察会・出荷調製研修会を開催しました**

令和 7 年 11 月 4 日

気仙沼農業改良普及センター



令和 7 年 9 月 30 日、気仙沼農業改良普及センター主催で気仙沼・南三陸地域枝もの用クロマツ現地視察会・出荷調製研修会を開催しました。

最初に、南三陸町戸倉のクロマツ出荷調製施設において、株式会社南三陸 P i n e P r o より、クロマツの収穫の方法と出荷規格について説明をいただき、また、収穫したクロマツの現物を用いて、調製方法を実演いただきました。

次に、南三陸町内の今年は種した圃場から、移植 1 年目、2 年目、3 年目、収穫間近まで各ステージの圃場 6 カ所を視察しました。降雨不足で生育不良のほ場もありましたが、その他の圃場は順調に生育していました。

県では、枝もの用クロマツ生産の拡大に向けて、引き続き支援していきます。

#### **○登米市内で収穫したりんごを味わってみてください！**

令和 7 年 11 月 5 日

登米農業改良普及センター



宮城県内有数のりんご生産地である登米市では、9 月上旬の早生品種の出荷開始以来、様々な品種の収穫が順調に進んでいます。今年は、夏の高温や渇水といった厳しい気象条件に直面し、栽培管理に大変な労力を要しました。しかし、生産者の皆様の弛まぬ努力と献身的な管理の結果、今年も美味しい完熟りんごを出荷することができます。

また、登米地域では、未来の農業を見据えた取り組みとして、若手生産者が中心となり「りんご樹体ジョイント栽培」という先進技術の導入を推進しています。このジョイント栽培は、接ぎ木技術を用いて複数の樹を直線状に連結し、栽培体系をシンプルにするものです。これにより、従来の方法よりも早く収穫可能な状態（早期成園化）を実現し、さらに日々の作業の省力化も期待できます。登米地域では平成 29 年に初めて導入されて以降、導入面積は年々拡大中です。今年で定植 4 年目となる園地では、果実が本格的に色づく段階に入り、順調な生育とともに収穫への期待が高まっています。

登米の恵みが詰まった新鮮なりんごは、市内の農産物直売所や、生産者の方々の庭先販売所にてお買い求めいただけます。気象条件の難しさを乗り越えて実った、登米市産の美味しいりんごを、ぜひこの機会にご堪能ください。

#### **○宮城県花き品評会で管内農家が農林水産省農産局長賞を受賞しました**

令和 7 年 11 月 5 日

亘理農業改良普及センター





令和7年10月17日から19日まで、せんだい農業園芸センター（仙台市若林区）を会場に宮城県花と緑普及促進協議会主催の宮城県花き品評会が開催されました。17日に審査が行われた結果、管内からの出品13点の内、金賞2点、銀賞3点入賞しました。

金賞第二席となったストレリチア（受賞者：名取市丹野司氏）が農林水産省農産局長賞を受賞したほか、金賞となったひまわり（受賞者：名取市丹野真知子氏）が仙台市長賞及び株式会社仙花代表取締役社長賞を受賞、また、名取市のトルコギキョウとカーネーションが銀賞を受賞しました。

名取市はカーネーションの産地として知られていますが、多様な花きの生産が行われている地域でもあります。

普及センターでは、今後も花き生産の取組を支援していきます。

### ○若手りんご生産者視察研修を開催しました

令和7年11月6日

亘理農業改良普及センター



令和7年10月23日、亘理名取果樹振興協議会の若手りんご生産者を対象に、りんご栽培技術や果樹経営を学び、若手同士の技術交流を目的とした視察研修を福島市内で実施しました。参加者は7人で、苗木業者と果樹園の2か所を訪問しました。

株式会社福島天香園では、販売部長より、りんごやものの苗木の生産状況や、着色系ふじ、りんごの台木などについて説明を受けました。その後、ほ場を見学し、苗木の育成状況を確認しました。今後の品種更新の参考となる情報を得ることができました。

次に視察した大槻果樹園では、園主から本年の作柄やパート職員の技術について話を伺いました。福島地区も専門部会の部会長にも同席いただき、もの出荷状況やパート職員を共同管理する運営組織について紹介いただきました。りんごのほ場では果実がそろっており、参加者はその品質の高さに感心していました。摘果をパート職員にすべて任せることなど、経営面でも参考になりました。

参加者は、日ごろから技術研鑽に熱心で自主的に技術交流を行っています。今回も積極的に質問を行い、果樹経営の参考になる有意義な機会となりました。

今後も普及センターでは、こうした技術交流を通じて若手りんご生産者の活動を支援してまいります。

### ○花き品評会で（株）宮城フラワーパートナーズが金賞を受賞！

令和7年11月6日

大崎農業改良普及センター





令和7年10月17日（金）に開催された「令和7年度宮城県花き品評会」（主催：宮城県花と緑普及促進協議会）において、加美町の株式会社宮城フラワーパートナーズが出品されたビオラ「華あられ」が金賞及び宮城県園芸協会会长理事賞、また、パンジー「ファルダ」が銀賞となりました。

品評会に出品された花きは、10月18日（土）～19日（日）の2日間、せんだい農業園芸センターで開催された「みやぎフラワーフェスティバル2025」で一般展示され、19日には表彰式が行われました。

表彰式に出席した同社の今野高代表取締役は、「金賞を受賞できたのは、日ごろ栽培管理を行っている従業員の努力の賜物であり、従業員に感謝したい」と感想を述べられていました。

（株）宮城フラワーパートナーズ様、受賞誠におめでとうございます！

○(農)岩沼園芸組合がきゅうりの秋作反省会を開催しました  
令和7年11月10日  
亘理農業改良普及センター



令和7年11月4日に、農事組合法人岩沼園芸組合が秋作反省会を開催し、組合員10名のほか、種苗メーカーと普及センターが参加しました。

反省会では、種苗メーカーから抑制きゅうりの生産状況や促成栽培の栽培方法のほか、特にタバココナジラミの防除に関する情報が提供されました。

普及センターからは、温暖化による病害虫発生の長期化やきゅうりのウイルス病を媒介する害虫を「園芸施設に入れない」、薬剤散布で「増やさない」等の対策を指導しました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、地域のきゅうり生産を支援していきます。

○石巻産オリーブオイルの販売が始まっています  
令和7年11月11日  
石巻農業改良普及センター

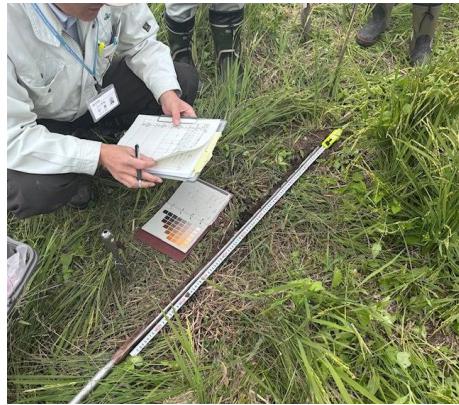


石巻地域では、令和7年10月2日から今年産オリーブの収穫作業が開始され、約2.2トンのオリーブから、約110リットルのオリーブオイルが搾油されました。

石巻産のオリーブオイルは、品質に拘り、収穫から6時間以内に搾油された高品質なオリーブオイルです。

いしのまき元気いちばなど、市内の直売所にも並び始めました。ぜひ皆さんも石巻地域のおいしいオリーブオイルを味わってください。

○登米市迫町古宿地区にてばれいしょ作付けにかけた土壤調査を行いました  
令和7年11月17日  
登米農業改良普及センター



登米市迫町古宿地区では、令和4年から高収益作物への取り組みとして、加工用ばれいしょの栽培を行っていますが、暗渠※（あんきょ）が老朽化したほ場を中心に戸湿害による生育不良が発生し、収量が低下する問題が生じています。

そこで、令和7年10月22日に当地区にて、加工用ばれいしょ栽培に適したほ場の選定に向か、農業農村整備部担当者の指導のもと土壤調査を行いました。

今回の調査では検土杖（写真右）による調査を行い、土壤の特徴を把握したほか、実際に土壤を掘り、土質や硬盤、暗渠までの深さ、もみ殻（疎水材）の状況などを確認しました。調査の結果、一部の地点では、粘土質の土壤が多い、もみ殻の腐植化が進んでいるなど、排水不良がはつきりと確認できる圃場がみられ、土壤調査の重要性を確認する良い機会となりました。

普及センターでは、今後もばれいしょの生産振興に向けて支援を行ってまいります。

※暗渠（あんきょ）とは・・・

水田の水はけを良くするために、深さ70cm前後のところに管を敷設し、もみ殻などで覆う仕組み。

○地域の宝！GI 產品とうまいものフェアに河北せりが出店！！

令和7年11月18日

石巻農業改良普及センター

「地域の宝！GI 產品とうまいものフェア」が、10月31日～11月2日の3日間、仙台市中心部にある藤崎百貨店前で開催されました。

地理的表示（GI）保護制度とは、その地域ならではの自然や歴史、文化、風習の中で育まれてきた品質や社会的評価などの特性を有する产品的名称を地域の知的財産として保護する国の制度です。登録により地理的表示とGIマークが使用できます。

当管内でGIに登録している「河北せり」も出店し、普及センターで販売支援を行いました。

「河北せり」は、道の駅「かほく上品の郷」の他、宮城県内の各量販店で販売されています。ぜひ御賞味ください。

○宮城県花き品評会で株式会社フローラ平山のキクが農林水産大臣賞を受賞しました！

令和7年11月19日

美里農業改良普及センター



令和7年10月17日（金）に、せんだい農業園芸センター（仙台市）で開催された宮城県花き品評会において、大崎市鹿島台の株式会社フローラ平山（代表取締役平山喬博氏）のディスパッドマム「マッチポイント」が農林水産大臣賞を受賞しました。

宮城県花き品評会は、本県花きの生産技術と市場評価の向上及び消費者等への理解を図るため、毎年開催されています。今年度は、切り花・枝物類、鉢物及び花壇用苗物類の花き 102 点が出品され、審査により株式会社フローラ平山の出品物が最も優秀と認められました。

株式会社フローラ平山は、2010(H22)年に家計と経営の分離、販売力・信用の強化、雇用及び福利厚生の充実を目的に法人化し、施設面積 157a でスプレーギクやトルコギキョウなど 515 千本の切り花を周年生産しています。

蒸気による土壤消毒、土壤分析による施肥設計、完熟堆肥による土づくりにこだわり、キク類は約 50 品種を導入し、直挿し栽培や養液土耕システムと複合環境制御装置を活用し、省力・省エネによる高品質安定生産を実現しています。

販売は付加価値の高い花束での直売が中心で、仙台や東京の市場にも出荷しています。

代表は「多くの人に支えられたおかげで最高賞を取ることができた。明るく元気になる花づくりに努めていきたい」と喜びを語っていました。

#### ○宮城県花き品評会で気仙沼管内の生産者が金賞・銀賞を受賞しました！

令和7年11月20日  
気仙沼農業改良普及センター

##### 金賞

全国農業協同組合連合会  
宮城県本部長賞



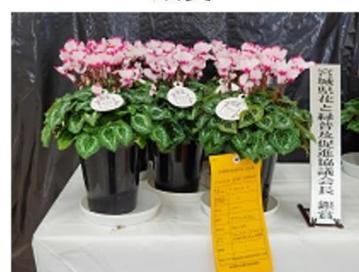
及川誠司氏(輪ギク)

##### 銀賞



及川誠司氏(スプレーイク)

##### 銀賞



(有)気仙沼園芸(シクラメン)

令和7年10月17日に令和7年度宮城県花き品評会がせんだい農業園芸センターを会場に開催されました。気仙沼管内からは切り花・枝もの類部門2点、鉢もの類部門2点の合計4点が出品され、審査の結果、及川誠司氏の輪ギクが金賞・全国農業協同組合連合会宮城県本部長賞、及川誠司氏のスプレーイクと有限会社気仙沼園芸のシクラメンが銀賞に選ばれました。

受賞された皆様、大変おめでとうございます。

出品にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

#### ○枝もの用クロマツ収穫・調製作業研修会が開催されました

令和7年11月20日  
気仙沼農業改良普及センター





令和7年10月30日、南三陸町で宮城県園芸推進課主催による枝もの用クロマツ収穫・出荷調製作業研修会が開催され、宮城県クロマツ研究会員、県関係者が参加しました。

南三陸町で枝もの用クロマツの生産に取り組んでいる株式会社南三陸PineProから、収穫したクロマツの出荷調製作業の手順や出荷規格について説明をいただきました。また、株式会社なにわ花いちばから、クロマツの需要動向やどういう姿形のクロマツが高く売れるか等の話がありました。

枝ものの用クロマツは出荷まで4年程度の栽培期間を要します。研究会設立から5年が経ち、早い時期に作付けを開始した会員の出荷が今年から始まります。今年出荷の会員や来年出荷予定の会員などが、商品価値を高める栽培や調製方法について、熱心に質問していました。県では、枝ものの用クロマツ生産の拡大に向けて、引き続き支援していきます。

### ○いちごほ場巡回と今後の管理に向けた研修会が開催されました

令和7年11月20日  
亘理農業改良普及センター



令和7年11月12日に亘理町逢隈支部の令和7年産いちごほ場巡回指導会が開催され、生産者18名が参加しました。

当日は、現地の2ほ場で「にこにこベリー」と「もういっこ」の生育状況を観察しました。「にこにこベリー」については、定植時が霜刈りと重なり定植を早めてしまったことから、開花にややばらつきがみられましたが、おおむね順調に生育し、11月中旬頃の収穫が見込まれました。「もういっこ」についても生育は順調で、収穫は例年どおりの11月中旬以降になると見込まれました。

その後、いちご選果場にて普及センターから今後の管理について情報提供を行いました。定植後の気

象が日照不足だったことから、今後は適切な温度設定とし、葉の展開を止めないようにすることを目標に説明しました。

また、近年育苗期の高温の影響か、不時出蕾や芽なし株がみられている生産者が多くなっていることから、今後の親株管理についても説明を行いました。

普及センターでは、今後もいちごの安定生産に向けて支援を行っていきます。

### ○三陸運輸株式会社がブロッコリー栽培に取り組んでいます

令和7年11月21日  
亘理農業改良普及センター



山元町において、令和7年7月10日に播種し、8月末に定植したブロッコリーの収穫作業が始まっています。この取組は、農業分野の取組を検討している三陸運輸株式会社と、(株)やまもとファームみらい野の協力と両社の契約のもと実現しました。

初めての栽培となる今回はブロッコリー約20,000株の栽培に挑戦しました。11月12日には市場への初出荷となりました。今後年末にかけて、1日当たり約300株から500株のブロッコリーを収穫し、仙台市内のスーパーにて販売する予定になっています。

協力している(株)やまもとファームみらい野の直売所にも、新鮮なブロッコリーが並び始めました。ぜひ皆さんも地元産のブロッコリーを味わってください。

○JA みやぎ登米米山イチゴ部会現地検討会が開催されました  
令和7年11月26日  
登米農業改良普及センター



令和7年10月30日に、いちごの現地検討会が開催され、4経営体8人が参加しました。

農業・園芸総合研究所の職員及びJAみやぎ登米の担当者とともに、米山イチゴ部会の生産者4経営体のほ場を巡回し、生育状況の確認及び今後の管理について指導を行いました。

一部ほ場で花芽のバラツキが確認されたものの、生育はおむね順調に進んでいました。(その後、早いところでは11月8日から収穫が始まりました!)

今後も、適切な栽培管理についての指導を継続して行い、安定生産に向けて支援していきます。

**④収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援**

○水稻乾田直播栽培技術の習得支援  
令和7年11月5日  
仙台農業改良普及センター



10月下旬から11月上旬にかけて、JA新みやぎあさひな管内で水稻乾田直播栽培に取り組む5法人（農事組合法人アグリ今泉（富谷市）、株式会社高橋グリーン（大和町）、農事組合法人若木の里（大和町）、

みどりあーと山崎株式会社（大郷町）、有限会社ITO（大衡村））を訪問し、今年度、当普及センターが実施してきた生育調査や収量調査結果の情報を提供するとともに、技術習得に向けた課題等の聞き取りを実施しています。

当普及センターでは、これまで上記5法人からの要望を受け、水稻乾田直播栽培技術の指導を実施してきましたが、今年度後半には、関係者も含めた総合検討会を開催し、さらなる技術の習得支援を続けてまいります。

○大豆ほ場巡回指導会が開催されました  
令和7年11月14日  
登米農業改良普及センター



令和7年11月6日に豊里地区の令和7年産大豆ほ場巡回指導会が開催され、生産者15名が参加しました。

普及センターからは管内の生育状況と収穫適期の判断、汚粒防止の対策などについて説明しました。その後、現地3ほ場で茎と子実水分の測定を行いました。測定したほ場はまだ茎水分が高く、早生品種を除き、収穫は11月中旬以降になると見込まれました。

また、近年大豆ほ場に帰化アサガオが発生し、除草に苦労している生産者が多くなっていることから、効果的な除草剤散布方法についても説明を行いました。除草展示ほの生産者からも補足説明をいただきましたが、参加者からは質問が多く出されるなど、関心の高さが伺えました。

普及センターでは、今後も大豆の収量と品質の向上を目指して支援を行っていきます。

○大豆の適期収穫に向け、現地検討会が開催されました。  
令和7年11月19日  
美里農業改良普及センター





美里普及センター管内では約1,600haで大豆が栽培されており、主な品種はミヤギシロメ、タチナガハ、すずみのりとなっています。今年は猛暑や7月の渇水等を生産者の技術で何とか乗り越え、まもなく収穫を迎える時期となります。

11月上旬には管内の各営農センター毎に適期収穫に向けた現地検討会が開催され、普及センターは講師として対応しました。

現地検討に先立ち、今作の気象経過や生育概況、適期収穫に向けた判断方法等について資料を用いて説明後、各地区で現地ほ場を巡回しながら穀粒水分計を用いて大豆と茎水分を測定し、収穫適期の目安を助言しました。

また、生産者が自ら刈り取り適期の判断ができるようベンチを使った茎水分の簡易判断方法を講習しました。

今作、播種後の少雨や夏季高温、多発した害虫の影響が心配されましたが生産者の努力が実り、莢付きも良く、また、巡回したほ場の大豆は良好な品質だったことから、高品質な大豆生産が期待されます。

## ○収穫前の大豆現地検討会が開催されました！

令和7年11月19日  
石巻農業改良普及センター



令和7年10月29日から11月18日まで、石巻管内の各地域（東松島、石巻、河北、河南、桃生）で収穫前の大豆現地検討会が開催されました。参加者全員で各生産者のほ場を巡回し、子実と茎の水分値、外観等から収穫可能な時期の検討を行いました。

今年の大豆の生育は、7月の記録的な少雨による乾燥の影響が見受けられたほか、「タンレイ」の一部では青立ち株の発生が確認されました。生産者の方々は、品質の良い大豆の収穫に向け、適期収穫と適切な乾燥作業について確認していました。管内的大豆の収穫は、11月中旬から始まり、12月まで続く予定です。

## ⑤地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○規格外いちごを活用したメニュー開発研修会を開催しました  
令和7年11月6日  
亘理農業改良普及センター



令和7年10月21日に、山元町のいちご生産法人である株式会社オハナを対象に、規格外いちごを活用したメニュー開発研修会を開催しました。

株式会社オハナは、今年度の県事業により、いちごの選果場・加工場を新設中であり、規格外いちごを使った冷凍いちごを出荷予定です。今回は、ホンザキ東北株式会社のテストキッチンで実際に導入するスマージーブレンダーを使って、スマージーの試作を行いました。

講師には、仙台国際ホテルのシェフパティシエである土屋貴幸氏をお招きし、スマージーを作る際の注意点や提供方法等の講義の他、参加者とともに実習を行いました。参加者は、冷凍具合とスマージーの出来具合や品種の違い等を比べながら、実際の提供に向けて、イメージがつかめた様子でした。

当普及センターでは、いちごをはじめ管内農産物のさらなる活用に向け、支援してまいります。

## ○令和7年度東部管内鳥獣被害防止対策研修会が開催されました

令和7年11月20日  
石巻農業改良普及センター



令和7年11月5日に、石巻合同庁舎において、令和7年度東部管内鳥獣被害防止対策研修会が開催され、60名の参加がありました。

石巻専修大学理工学部の辻大和教授を講師に迎え、「もしもに備える！話題のクマからシカ・イノシシまで、最新の被害対策と全国事例」と題して講演いただきました。

講演では、シカやイノシシの生態や被害防止対策についてのほか、最近、市街地でも目撃されるなど話題となっているクマについてもお話しいただきました。農家ができるシカやイノシシの対策としては、侵入防止柵の設置や、農地周辺からの野菜くずなどの誘因物除去などの基本が重要であることを学びました。

#### ○大崎市の坂井悦子氏・美津男氏御夫妻が『令和7年度農事功績者表彰』で『緑白綬有功章』を受章！

令和7年11月27日  
大崎農業改良普及センター

大崎市の坂井悦子・美津男御夫妻が、公益社団法人大日本農会の「令和7年度農事功績者表彰」において「緑白綬有功章」を受章されました。表彰式は令和7年11月12日、東京・赤坂インターシティAIRにおいて、総裁である秋篠宮皇嗣殿下の御臨席のもと執り行われました。

同表彰は明治27年から続く、農業分野で最も歴史と権威ある表彰の一つです。「緑白綬有功章」は、農業改良の実践や地域農業の発展に顕著な功績を挙げた農業者に授与されます。

坂井御夫妻は、環境に配慮した特別栽培米に先進的に取り組み、ブランド米「ささ結」の振興に深く携わってこられたほか、指導農業士としての後進育成、直売所運営や味噌づくり講習会による食育活動など、多方面にわたる長年の貢献が高く評価され、今回の受章となりました。

表彰式後の受章祝賀パーティーでは、秋篠宮皇嗣殿下より「お声がけ」があり、直接お励ましのお言葉を賜りました。

御夫妻のこれまでの功績に深く敬意を表しますとともに、今後も一層の御活躍を祈念いたします。

#### ○農地整備事業の担い手が高収益作物(ねぎ)の先進地視察を行いました

令和7年11月28日  
仙台農業改良普及センター



(農)あきう生産組合の構成員3名が、ねぎ栽培の先進地である加美町の星農園を視察訪問しました。

(農)あきう生産組合は、仙台市太白区秋保町野尻地区で実施される農地中間管理機構関連農地整備事業の担い手となっており、今年度から来年度にかけて面工事の開始が予定されています。農地整備の実施に当たっては、高収益作物の生産額の増加等が要件になっており、(農)あきう生産組合では、高収益作物の1つとしてねぎ栽培に取り組んでおります。

今回は「満天ねぎ」としてブランド化し、食味にこだわったねぎを生産している星農園の星進太郎代表を訪問し、土づくりから育苗、栽培、調製作業などに至るまで、幅広くご指導いただきました。特に土づくりや追肥にはこだわっており、参加した生産者は、少しでも自身らの栽培に役立てようと、熱心に、事細かに質問しておりました。

今回の視察を契機に、高収益作物の栽培技術が向上していくことを期待しています。

仙台農業改良普及センターでは、今後も農地整備の担い手を支援してまいります。



11月2日に、丸森町の町営グラウンドで「あぶくまの里モーモーまつり」～丸森町畜産共進会～が開催されました。

畜産共進会には、乳用牛34頭、肉用牛23頭のエントリーがあり、体型の良さや強靭な足腰など日ごろの家畜改良の成果が競い合わされました。また、牛を美しく歩行させたものに送られるベストリードマン賞は、乳牛を上手に歩かせた小学生が受賞し、会場を沸かせました。

当日は、穏やかな日差しの下、牛鍋の振舞いや牛肉販売、牛乳提供、堆肥販売など牛づくしのイベントが開催されたほか、野菜販売や小動物ふれあいコーナーなども設けられ、多くの家族連れなどが楽しむ姿があちこちで見られました。

## ○地域計画推進地区農業経営者意見交換会が開催されました

令和7年11月13日  
登米農業改良普及センター



令和7年11月6日、豊里公民館にて、登米市主催の「登米市地域計画推進地区農業経営者意見交換会」が開催されました。

会には、豊里町内で経営規模の大きい農業法人や生産組合の代表者をはじめ、登米市役所、登米市農業委員会、農業委員、農地利用最適化推進委員、登米地域事務所の関係者などが参加しました。

令和7年3月に策定された登米市地域計画の実現と内容を充実させるため、同年5月に豊里町をモデル地区として選定し、担い手農家へ農地集積・集約に向けた方策を関係機関で検討してきました。こうした取り組み中で、「やはり担い手農家の声を直接聞くことが重要」ということで、今回の意見交換会が開催されました。



## 2. 持続可能な農業・農村の構築

### ① 要請・緊急対策、その他

○あぶくまの里モーモーまつりが開催されました  
令和7年11月12日  
大河原農業改良普及センター

参加者からは、「農地集積だけではなく集約が進むことを望む」という意見や、「地区では固定転作に20年前から取り組んでいるが、近年は難防除雑草が増えており、固定転作からブロックローテーションに切り替えて水田に戻せないか」、「米価の上昇により、地権者から農地を返して欲しい」と求められるケースも生じているなど切実な現状も共有され貴重な時間となりました。

多くの課題はありますが、関係機関が力を合わせて解決に取り組みながら地域計画の実現を進めています。

## ○第28回気仙沼市「花とみどりのまちづくりの集い」が開催されました

令和7年11月20日  
気仙沼農業改良普及センター



令和7年11月1日、気仙沼市をはじめとした4組織の主催による第28回気仙沼市「花とみどりのまちづくりの集い」が開催され、気仙沼市内の緑化推進団体関係者及び一般市民等約50名が参加しました。

まず、8月下旬に開催された「花いっぱいコンクール」の表彰式があり、入賞された団体・企業の部3団体、個人の部2個人、学校の部3団体が最優秀賞・優秀賞・努力賞をそれぞれ授与されました。

続いて、花や緑化により親しんでいただくために、「花の育て方～暑さに負けない花壇づくり～」と題して、暑さに強い花、、暑さ対策、植物を育てるポイント等について気仙沼農業改良普及センターの職員が講演し、会場からは、害虫や資材、生育不良株に関する質問がありました。

県では、花の消費拡大に関する活動も行っています。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>

〒989-1243

大河原町字南 129-1

TEL:0224-53-3519

<亘 理>

〒989-2301

亘理町逢隈中泉字本木9

TEL:0223-34-1141

<仙 台>

〒981-0914

仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8320

<大 崎>

〒989-6117

大崎市古川旭四丁目1-1

TEL:0229-91-0727

<美 里>

〒987-0005

美里町北浦字笹館5

TEL:0229-32-3115

<栗 原>

〒987-2251

栗原市築館藤木5-1

TEL:0228-22-9404

<登 米>

〒987-0511

登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5

TEL:0220-22-8603

<石 卷>

〒986-0850

石巻市あゆみ野5-7

TEL:0225-95-7612

<気仙沼>

〒988-0181

気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6

TEL:0226-25-8068



\*各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.226

発行日:2025年12月12日

発 行:宮城県農政部農業振興課

編 集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbf@pref.miyagi.lg.jp